

令和 6 年度第 1 回総合教育会議 会議資料

◆国・県の学力調査及び体力運動能力調査の結果報告

1 調査の目的

町内児童生徒の学力・体力の状況を把握・分析することにより、学力・体力の向上に係る施策の成果と課題を確認し、今後の改善を図るための対策を講じていく。

2 調査の内容等

(1) 学力の推移に関する判定基準となる調査について

①青森県学習状況調査

県教育委員会が、確かな学力の育成のために、小学 5 年生、中学 2 年生の学習内容の定着度合い等を把握するための調査

②全国学力・学習状況調査

文部科学省が小中学校の最高学年全員を対象として、学力・学習状況の調査を目的として行う学力調査

③令和 6 年度高校入学者選抜学力検査（教科別素点平均）

県が調査した学力検査による教科別・地区別の平均点

(2) 体力の推移に関する判定基準となる調査について

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査

小学 5 年生、中学 2 年生を対象として行うスポーツテスト

3 調査結果の学力・体力の現状

(1) 学力について

①小学校

青森県学習状況調査については、舞戸小は、西北平均・県平均より上位。西海小は、やや劣る。両校を合わせると、概ね県平均・西北平均並みである。

全国学力・学習状況調査については、舞戸小がやや高いが、両校合わせると全国平均・県平均並みである（年度によって上下あり）。令和 5 年度は、舞戸小がよい成績であった。 → P.4～5 参照

②中学校

青森県学習状況調査については、ここ数年の間に西北平均・県平均より上位に位置するようになった。

全国学力・学習状況調査については、令和 4 年度以降、県平均・全国平均より上位に位置するようになった。 → P.6～7 参照

令和 6 年度の高校入学者選抜学力検査（教科別素点平均）では、鱈中は、全教科

において西北地区及び県平均を上回った。県内においては、三八地区が最も高く、東青又は中南、次いで西北、上北、下北の順となる。 → P.8 参照

(2) 体位・体力について

①小学校

身長については、男女ともほぼ全学年で県平均・全国平均を上回る。体重については、男子は全国平均を上回るも県平均よりやや下回る。女子は、概ね全国平均を上回る。 → P.9～11 参照

※青森県の肥満傾向児出現率は、全学年で全国平均を上回っており、当町も全国平均を上回っている学年が多い（小中共通）。

体力については、西海小はシャトルランは男女とも、ソフトボール投げは女子が県平均・全国平均以上であるが、それ以外の種目は下回るものが多い。特に、長座体前屈と 50m 走は男女とも成績向上を図りたい。舞戸小は、男子の上体起こしと女子の反復横跳びが全国平均以上、シャトルランは男女とも県平均・全国平均のいずれかを上回っている。その他の種目は同程度か下回っており、握力及び立ち幅跳びは男女とも成績向上を図りたい。 → P.12～15 参照

②中学校

身長については、1 年生の男子を除いて県平均・全国平均以上で、体重については、概ね全学年で県平均・全国平均以上である。 → P.10～11

体力については、男女とも 50m 走で県平均・全国平均以上、上体起こし、反復横跳び、体力合計点で県平均以上。男子は長座体前屈、女子は握力、シャトルランの成績向上を図りたい。 → P.16～17 参照

4 今後の対策等について

(1) 学力について

①小学校

西海小は、近年、各教科とも県平均を下回っているため、個に応じた指導により低位の児童の学力向上を図りたい。舞戸小は、各教科とも県平均を上回っているため、更なる向上を図りたい。両校とも、タブレットドリルを活用した個別最適な学習を進めたり、人数が多い学級では習熟度別の少人数指導を工夫していくなど、学習内容の定着に努めたい。

②中学校

近年、全国及び県平均値は下降傾向にあるものの、鰯中は横ばい傾向にあり一定の学力を維持して県平均の上位に位置するようになった。英語の成績が伸び悩んでいることから、これまで以上に小学校英語科との連携を図りながら、学力の向上を図る必要がある。

また、小学校同様、タブレットドリルを活用した個別最適な学習を進め、学習内容の定着を図りたい。

(2) 体位・体力について

①小学校

種目としては、握力、長座体前屈、50m 走、立ち幅跳び等の成績向上を図るためには、柔軟性、瞬発力、持久力等、総合的な基礎体力が必要である。授業はもとより業間運動や遊びも含めて運動する機会を増やすようにしたい。

また、十分な睡眠やバランスのとれた食事と規則正しい生活習慣により、健やかな成長を願っている。

②中学校

50m 走は男女とも記録が上昇傾向にあり、男子はほぼ全種目で県平均・全国平均と同程度である。女子は握力とシャトルランを強化する必要がある。全体的に見ると概ね各種目とも県平均・全国平均に近い。成長とともに運動能力の向上が見られる。

また、運動部に所属していない生徒の体力向上のためにも、教科体育の充実を図りたい。

◇体力の状況（県・全国平均との比較の概要）

	上回っている	下回っている
小学校	[西海] ・シャトルラン（男女） ・ソフトボール投げ（女） [舞戸] ・上体起こし（男） ・反復横跳び（女） ・シャトルラン（男女）	[西海] ・反復横跳び（男女） ・長座体前屈（男女） ・50m 走（男女） [舞戸] ・握力（男女） ・立ち幅跳び（男女） ・50m 走（男）
中学校	・50m 走（男女） ・上体起こし（男女） ・反復横跳び（男女）	・長座体前屈（男） ・握力（女） ・シャトルラン（女）

5 参考

(1) 鰯ヶ沢中学校卒業生の進路一覧

木造・五所川原・五所川原工科を中心に近隣の町外校が例年上位を占め、次いで地元の鰯ヶ沢高校となることが多い。鰯ヶ沢高校は、令和4年以降、入学者が増加している。 → P.18 参照

※この本調査に関する資料は、次項以降（P.4～18）に掲載